

個人の保育者特性プロフィールの 視覚的な診断から見えてくるものとは

—4年間の追跡調査より—

清水 幸子

キーワード：保育者特性、NTI、保育者養成、キャリア教育

1. はじめに

保育者養成課程に入学してくる学生が、2年間の在籍期間中に知識と技術を身につけ、さらに実習を経験することで、保育者としての資質を身につけて卒業していく。そしてそのほとんどの学生が保育現場に就職していく。本学では2年間という短い限られた時間の中で、保育の心や基礎をしっかりと身につけていくために、少人数制のゼミナールを必修科目として開講し、教員は担任としての役割を担い、1年を通じて担当する。

これまでは、学力的な評価以外には個別面談で個々の特徴を把握し、教員経験から得た感覚的なもので理解する方法が用いられていた。しかし、この方法では一定量の判断が難しく、具体的な特徴が見えにくい。そこで、学生の特徴を視覚的に判断できる方法を検討し、その一つとして、2013年に保育者用に開発された保育者特性インベントリィを試用し、その結果から、つまづきをできるだけ早い時期にフォローし、学習支援につなげていければと考え、実施を試みた。これまで、江田（2007）、伊藤・永房・星（2007）などが保育士や幼稚園教諭の資質に関する研究結果を報告したものや、垂水・金・林（2011）がSG式総合職業適応検査の結果を分析し保育者養成校におけるキャリア教育の課題を報告した研究がある。

しかし、藤村（2012）が新しく研究開発し、個人の保育者特性プロフィールの特徴が視覚的に把握することが可能になった、保育者特性イベントリィ

(NTI) (発行者 竹井機器工業株式会社) を活用した報告はほとんど見られない。まだ導入した事例報告もほとんど見当たらない。

そこで清水・佐藤(2017)は、第一段階として保育者特性インベントリィ(NTI)を実施し、入学時にどのような行動傾向があり、特徴が見られるのか、診断結果から、個々がまず自身の特性を理解し、自己開発の一つとして活用できるのではないかと、合わせて学習支援や演習・実技系科目の学習にも着目し、教員側の指導の工夫についても検討していくことを考えた。また、活用方法として実技や実習に関わる教員が各学生の行動特性を理解するとともに、課題を整理することで一人一人に合った効果的な学習支援の方法を見出すことが可能になると考え、検査結果を第一報としてまとめ報告した。

今回、第二段階として2年間の学びの終了時、第三段階として、卒業後保育士として勤務2年目終了時の2年毎の追跡調査により、どのような変化が見られたのか第二報として報告する。

2. 方法

2.1. 対象者

本研究の研究対象は2016年4月に入学した信州豊南短期大学幼児教育学科1年生のうち、筆者のゼミに2年間在籍し、その後保育士として就職した卒業生3名を調査対象とした(以下G1、G2、G3)。いずれも幼稚園教諭2種免許状、保育士資格を取得し卒業し、その後同じ社会福祉法人が運営する保育所に別々に勤務している。

この調査にあたり卒業生が勤務する社会福祉法人ならびに卒業生3名に研究協力の承諾を得ている。

2.2. 検査

第一回目は2016年4月(入学時)、第二回目は2018年1月(卒業時)、第三回目は2020年3月(社会人2年目年度末)の計3回、NTI(竹井機器工業

株式会社) を使用し、実施手引に基づき検査を実施した。内容は 49 の質問項目からなり、「いつもの自分にどの程度当てはまるか」を 5 段階で回答する。制限時間はないが、各質問項目を素早くありのままを回答する。なおこの検査は 3 回とも同じ検査方法で実施した。

また、第三回目は検査の他に記述式のアンケートも合わせて実施した。

表 1 検査用紙の例

次に下記の1～28の質問に回答してください。	全く あてはまらない	あまり あてはまらない	どちらとも いえない	やや あてはまる	非常に あてはまる
1. 人のために働くのが好きである・	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 人の気持ちになって喜んだり悲しんだりすることがたびたびある・	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

(出典) 竹井機器工業株式会社 NTI 実施手引より作成

3. 診断結果

各項目についての回答に対して「全く当てはまらない」から「非常に当てはまる」に 0～4 が配点される。ただし、逆転項目については 4～0 が配点される。各尺度は 7 項目からなり、尺度項目の合計点を求め、尺度得点となる。実施の手引きに従いながら、各個人が計算し作成していく。

3. 1. 尺度得点の算出

検査用紙は 5 枚複写で構成されており、4 枚目の「尺度得点計算シート(図 1)」に各個人の回答が複写されている。まず、○印付いている数字を横に合計して、左の口の中に合計点を記入する。次に口に記入された数字を今度は縦に合計して、最下段の合計欄の口に記入する。これが 7 つの特性の尺度得点になる。

3. 2. NTI 判定票の作成 (図 2)

3. 2. 1. NTI プロフィールの作成

検査用紙 5 枚目の最下段に複写されている 7 つの尺度得点を、保育者特性プロフィールの尺度名に該当する○を塗りつぶす。次に隣同士の丸印を図 3 のよ

うに線で結ぶ。その後、今回3つの時期を比較検討するため、表計算ソフトを用いて、検査結果を数値化し、デジタル処理を実施した。

3. 2. 2. 因子水準評価の作成

NTI プロフィールの右にある因子水準評価欄の最下段の空白部分から順に1) 情緒的受容性得点（愛他性、共感性、養育性の各尺度得点の合計点）、2) 思考的繊細性得点（論理的思考性、気働きの各尺度得点の合計点）、3) 行動的積極性得点（社交性、行動力の各尺度得点の合計点）としてそれぞれの合計点を記入する。これらの因子水準得点の該当する○を塗りつぶす。次に、隣同士の丸印を図4のように線で結ぶ。その後、今回3つの時期を比較検討するため、表計算ソフトを用いて、検査結果を数値化し、デジタル処理を実施した。

3. 3. NTIプロフィールと因子水準評価の読み方

NTIプロフィール上部中央に上から5～1の数字が印字されている。これは5段階標準点である。5段階標準点は、尺度得点の分布を得点の低い方から高い方に、7%、24%、38%、24%、7%の領域に分割し、それぞれ1～5点を配点したものである。7つの尺度をレーダーチャート式に表しているのがNTIプロフィールである。各尺度の標準点は、その特徴が1の場合は非常に弱い、2の場合はかなり弱い、3の場合は平均的、4の場合はかなり強い、5の場合は非常に強いと評価される。因子水準評価の5段階評価についても同様である。

3. 4. 保育者特性尺度得点にみる特徴

表2は7つの保育者特性尺度における得点の高低が具体的にどのような行動傾向となって現れる可能性があるかを示したものである。表中、低得点とは標準点1、2が、また高得点は標準点4、5がその範囲に入ると考えてよいと示されている。さらに分布の確率から、2よりも1の方が、また4よりも5の方がその傾向が強いとされている。またレーダーチャートは円の中心から標準点

1、2、・・・、5の順になっている。したがって中心に近いほど表2の低得点の特徴が強く、周辺は高得点の特徴が示される。

尺度得点計算シート

所属 株式会社 年月日

名前 部署 所属 年齢 (歳)

記入事項
 各項目の項目に該当する項目の数字を記入し、その数字の合計を計算し、その数字をこの表の数字に記入します。

項目 1 2 3 4 5

愛他性 0 1 2 3 4 5

共感性 0 1 2 3 4 5

寛容性 0 1 2 3 4 5

行動力 0 1 2 3 4 5

社会的 0 1 2 3 4 5

気働き 0 1 2 3 4 5

論理的理性 0 1 2 3 4 5

情緒的受容性 0 1 2 3 4 5

思想的柔軟性 0 1 2 3 4 5

行動的積極性 0 1 2 3 4 5

合計欄

図1 尺度得点計算シート

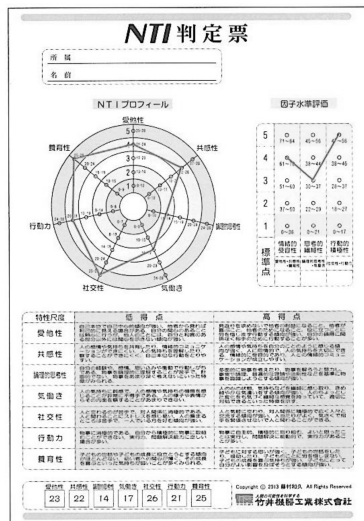


図2 NTI判定表

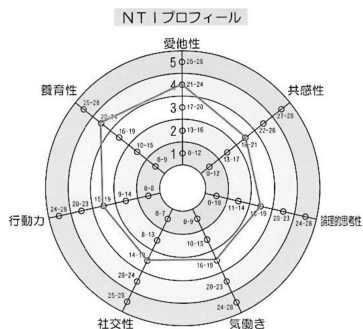


図3 NTIプロフィール

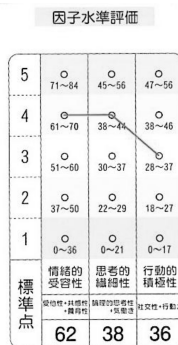


図4 因子水準評価

(出典) 竹井機器工業株式会社 NTI実施手引より (図1から図4)

表2 保育者特性尺度得点に見る特徴（行動傾向）

特性尺度	低得点	高得点
愛他性	自己本位で自己中心的傾向が強い。他者から見れば利己的に見える場合がある。自分の関心のあることは熱心に行うが、他人のことは、自分と利害のある部分以外には関心を示さない傾向が強い。	見返りを求めないで他者の利点になること、他者が喜ぶこと、他者のためになること、役に立つことに労を惜しまず行動する傾向が強い。自分の損得に関係なく相手のために行動することが多い。
共感性	人の感情や気持ちを共有したり、情緒的コミュニケーションができていない。人の気持ちを理解したり、察することができにくく、自己本位な行動をとりやすい。	人の感情や気持ちを自分のことのように感じる傾向が強く、人に同情的で、人の気持ちを大切にできる。情緒的に受容的であり、人との情緒的コミュニケーションが成立しやすい。
論理的思考性	自分の経験や、感情、思い込みや衝動で行動しがちである。物事を論理的に理解することが苦手で、計画的でない。物事をあまり深く考えないといった特徴が見られる。	多面的に物事を考えたり、物事を解ろうと努力し、事実や論理、普遍的な理論や法則性などを基準に物事を認識しようとする傾向が強い。
気働き	人の気持ちに鈍感で、人の感情や気持ちの機微を感じる事が非常に不得手である。人の様子や表情からその内面を察することがあまりできない。	人の心の状態、気持ちなどを繊細に感じ取り、きめ細かな気遣いをする傾向が強い。人のちょっとした変化をも気づく繊細な感覚を持っていて、適切に対処できるといった特徴を示す。
社交性	人と交わるのが苦手で、対人関係に消極的である。人と関わることにストレスを感じ易い。人の集まる場所は苦手で、一人である方を好む傾向が強い。	人と気軽に交わり、対人関係に積極的に広く人々と交流する傾向が強い。人当たりが良く、気さくで相手を緊張させないで人と関わるができる。
行動力	物事に消極的である。自分から積極的に物事に取り組むことができない。実行力、問題解決能力に乏しい場合が多い。	物事に自主的、積極的に取り組む。良いと思ったことは実行し、問題解決に能動的で、実行力があることが多い。
養育性	子どもの世話や子どもの成長に役立とうとする傾向がほとんど無い。幼い者への関心が薄く、その成長を喜ぶといった気持ちが弱いことが多く見られる。	子どもに対する思いが強く、子どもの世話をしたり、援助したり、子どものことに労を惜しまない。子どもの成長を喜ぶ気持ちが強い。子どもにとって自分が良い影響を及ぼそうとする傾向が強い。

(出典) 竹井機器工業株式会社 NTI 実施手引より作成

3. 5. NTI プロフィールの結果

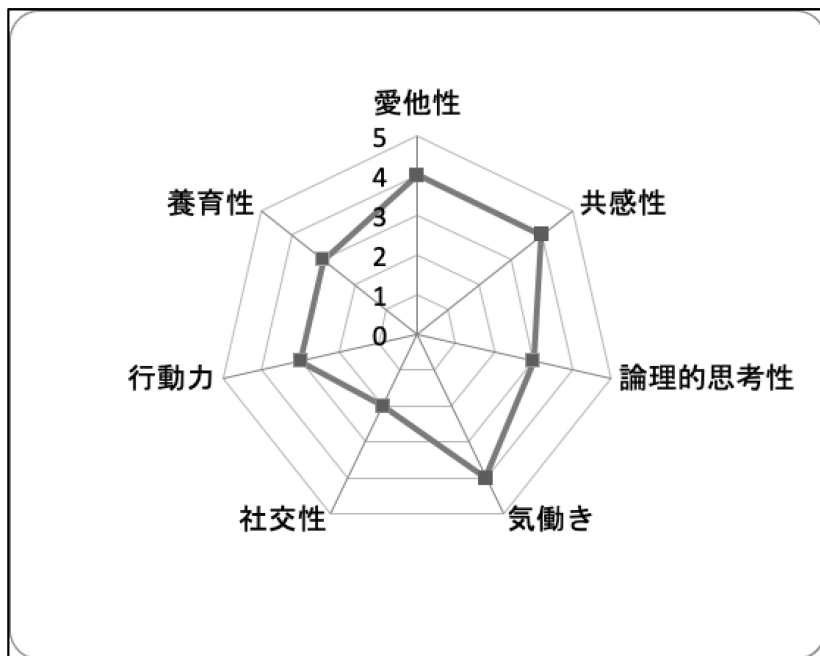


図5-1-1 (入学時) G1

図5-1-1は、G1の第一段階(入学時)のNTIプロフィールの結果である。愛他性が標準点4、共感性が標準点4、論理的思考性が標準点3、気働きが標準点4、社交性が標準点2、行動力が標準点3、養育性が標準点3のレーダーチャートである。この場合、見返りを求めないで他者の利益になること、他者が喜ぶこと、他者のためになること、役に立つことに労を惜しまず行動する傾向が強い。自分の損得に関係することなく相手のために行動することが多い。子どもに対する思いが強く、子どもの世話をしたり、援助したり、子どものことに労を惜しまない傾向が強い。しかし、社交性に乏しく、人と交わることが苦手で、対人関係に消極的な部分もあり、人と関わることにストレスを感じやすい特徴を持つ結果であった。

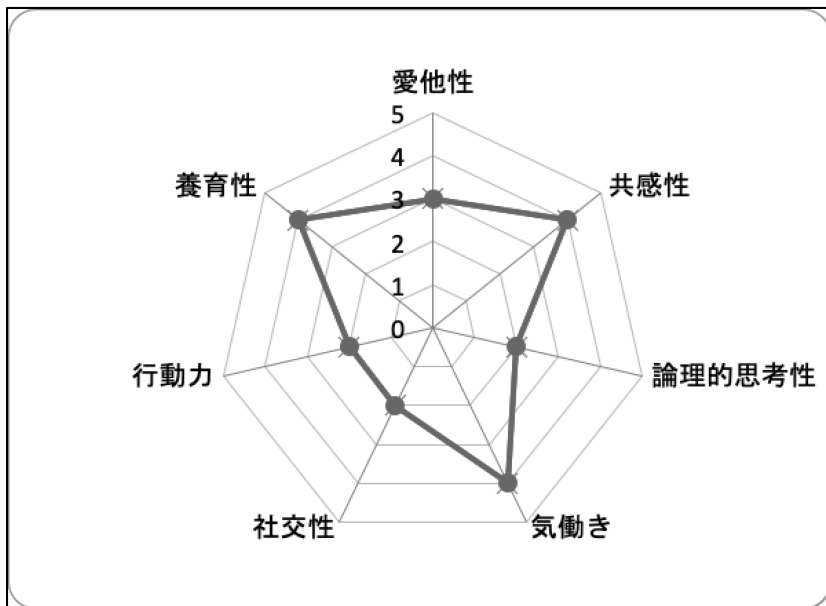


図 5 - 1 - 2 (卒業時) G1

図 5 - 1 - 2 は、G1 の第二段階(卒業時)の NTI プロフィールの結果である。愛他性が標準点 3、共感性が標準点 4、論理的思考性が標準点 2、気働きが標準点 4、社交性が標準点 2、行動力が標準点 2、養育性が標準点 4 のレーダーチャートである。7 つの保育者特性尺度の中、変化がなかった項目は、共感性、気働き、社交性であった。良くなった項目は養育性であった。低下した項目は愛他性、論理的思考性、行動力であった。良くなった項目が 2 年間の学びでの成長と考えた場合、実習などを通して養育性が向上し、子どもに対する思いがより強くなり、子どもの世話をしたり、援助したり、子どものことに労を惜しまないという保育の基礎的な部分が獲得できたのではないかと推測される。また変化がなかった項目や低下した項目もあり、NTI プロフィールは、2 年間で変化することが示された。

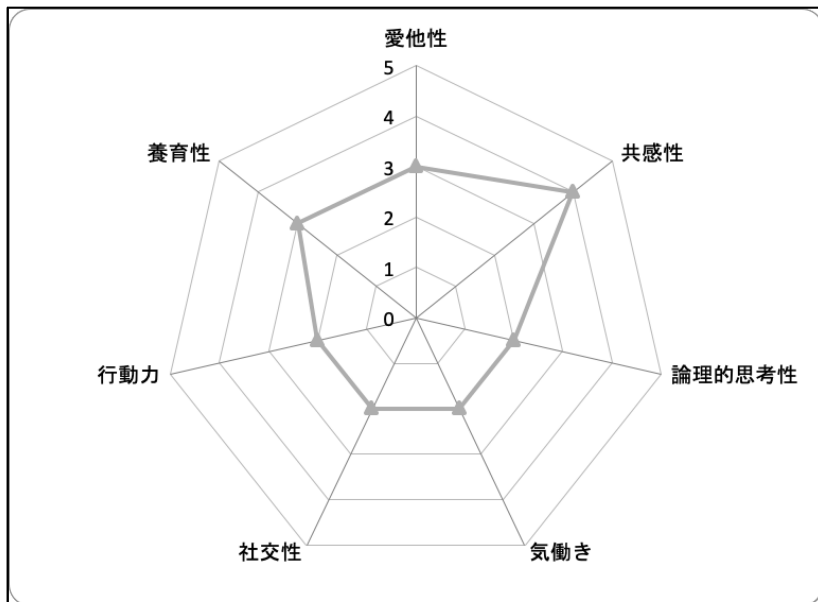


図5-1-3 (社会人2年終了時) G1

図5-1-3は、G1の第三段階(社会人2年終了時)のNTIプロフィールの結果である。愛他性が標準点3、共感性が標準点4、論理的思考性が標準点2、気働きが標準点2、社交性が標準点2、行動力が標準点2、養育性が標準点3のレーダーチャートである。7つの保育者特性尺度の中、卒業時に比べ変化がなかった項目は、愛他性、共感性、論理的思考性、社交性、行動力であった。良くなった項目はなかった。低下した項目は気働きと養育性であった。低下した項目が保育士として働いた2年間で変化した部分と考えた場合、実際の保育現場で、子どもの感情や気持ちの機微を感じる事が難しかった経験や、子どもの様子や表情からその内面を察することがあまりできなかった場面が度々あったことが推測される。また卒業後の2年間においても、NTIプロフィールは変化することが示された。

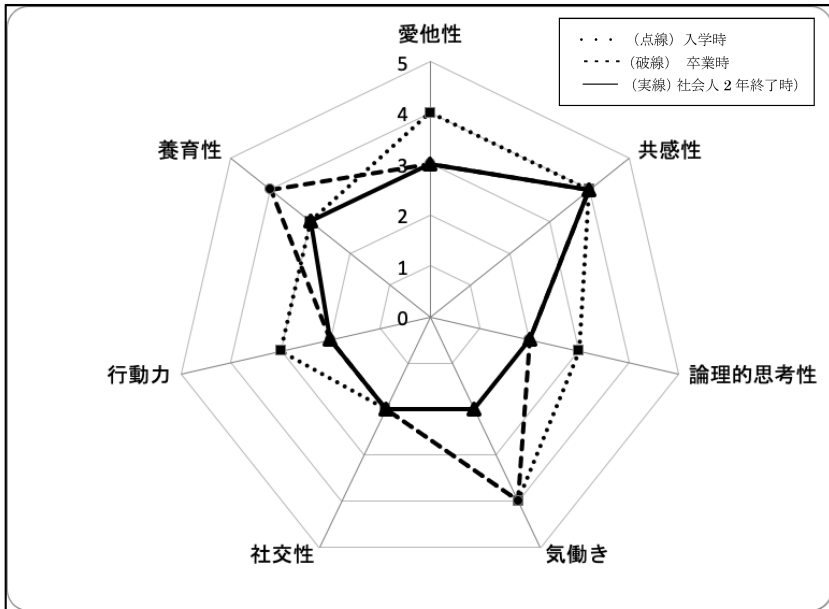


図5-1-4 (入学時から社会人2年終了時まで) G1

図5-1-4は、G1の第一段階から第三段階までの4年間のNTIプロフィールの結果を重ね合わせたものである。入学時に比べ、全体的に小さな七角形になっているが、丸みを帯びたバランスの良い形になっている。また7つの保育者特性の中、変化がなかった項目は、共感性（標準点4点）、社交性（標準点2点）であった。この場合、人の感情や気持ちを自分のことのように感じる傾向が強く、人に同情的で、人の気持ちを大切にできる。また苦手な部分として人と交わるのが苦手で、人と関わることにストレスを感じ易い特徴である。このように入学後、2年間の学生生活を送り、そして社会人として働いていく中で環境に変化があった中で、結果に変化がなかった部分は、おそらくその人の持っている特性であり、一般的に言う性格を表しているのかもしれない。

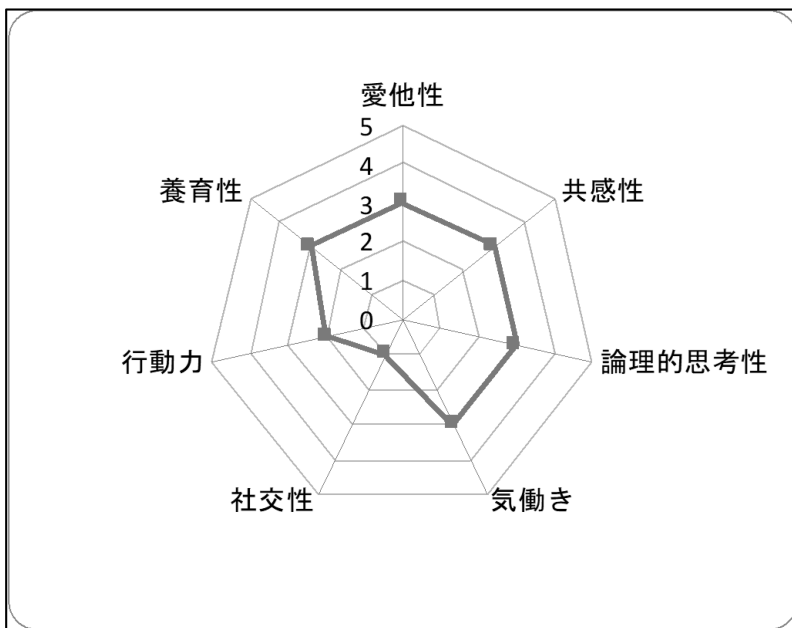


図5-2-1 (入学時) G2

図5-2-1は、G2の第一段階(入学時)のNTIプロフィールの結果である。愛他性が標準点3、共感性が標準点3、論理的思考性が標準点3、気働きが標準点3、社交性が標準点1、行動力が標準点2、養育性が標準点3のレーダーチャートである。この場合、人と交わるのが苦手で、対人関係に消極的である。人と関わることにストレスを感じ易い。人の集まる場所は苦手で、一人でいる方を好む傾向が強い。また物事に消極的である。自分から積極的に物事に取り組むことができない。実行力、問題解決能力に乏しいといった特徴がある。

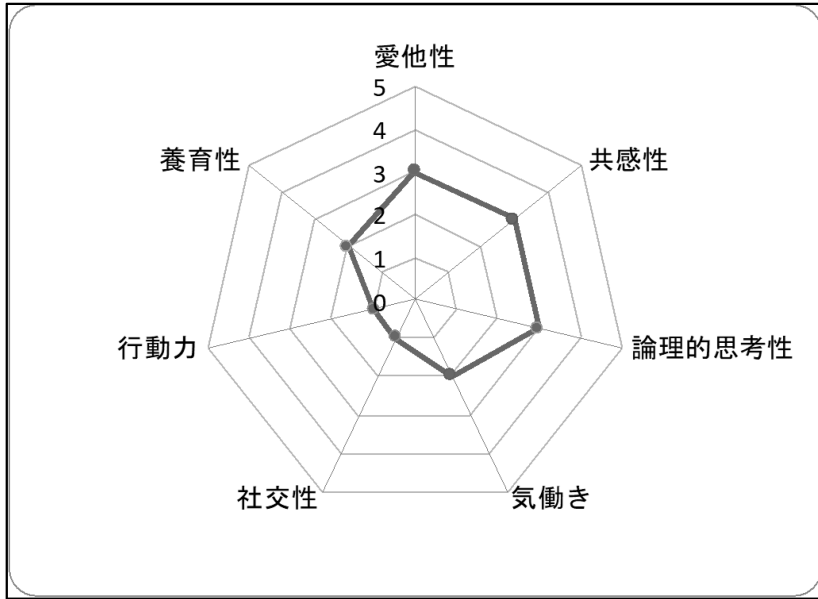


図5-2-2 (卒業時) G2

図5-2-2は、G2の第二段階(卒業時)のNTIプロフィールの結果である。愛他性が標準点3、共感性が標準点3、論理的思考性が標準点3、気働きが標準点2、社交性が標準点1、行動力が標準点1、養育性が標準点2のレーダーチャートである。7つの保育者特性尺度の中、変化がなかった項目は、愛他性、共感性、論理的思考性、社交性であった。良くなった項目はなかった。低下した項目は気働きと行動力と養育性であった。低下した項目が2年間の学びで変化した部分と考えた場合、実習などを通して、子どもの感情や気持ちの機微を感じる事が非常に難しく、人の様子や表情からその内面を察することができず、支援の方法に苦勞する場面が多かったのではないかと推測する。またNTIプロフィールは2年間で変化することが示された。

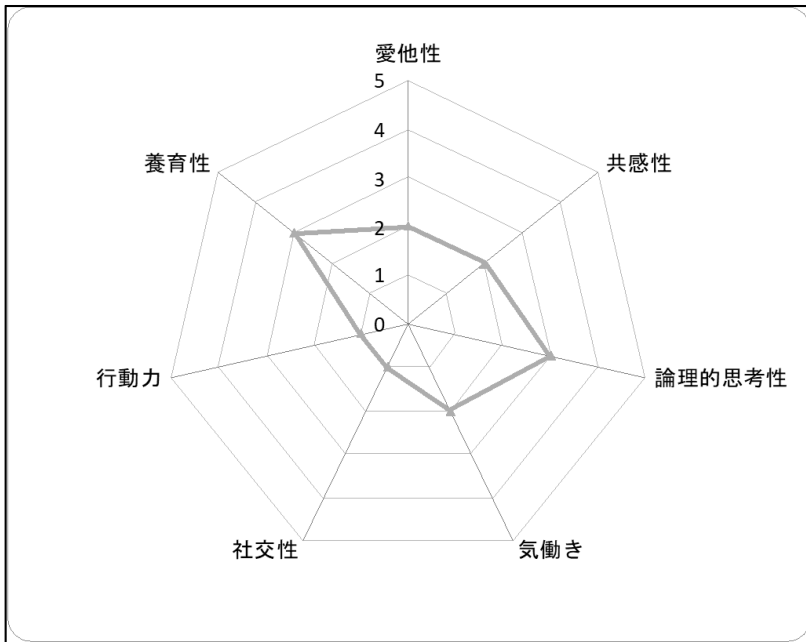


図 5 - 2 - 3 (社会人 2 年終了時) G2

図 5 - 2 - 3 は、G2 の第三段階 (社会人 2 年終了時) の NTI プロフィールの結果である。愛他性が標準点 2、共感性が標準点 2、論理的思考性が標準点 3、気働きが標準点 2、社交性が標準点 1、行動力が標準点 1、養育性が標準点 3 のレーダーチャートである。7 つの保育者特性尺度の中、卒業時に比べ変化がなかった項目は、論理的思考性と気働き、社交性、行動力であった。良くなった項目は養育性であった。低下した項目は愛他性、共感性であった。変化した項目は、保育士として働いた 2 年間で変化したと考えた場合、実際の保育現場で、子どもに対する思いが強く、子どもの世話をしたり、援助したり、子どもの成長を喜ぶ気持ちがより強くなったと推測できる。しかし自己本位で自己中心的傾向が強いことや自己本位な行動をとりやすい部分もあり、今後良い方向に変化できるか期待する部分である。また卒業後の 2 年間ににおいても、NTI プロフィールは変化することが示された。

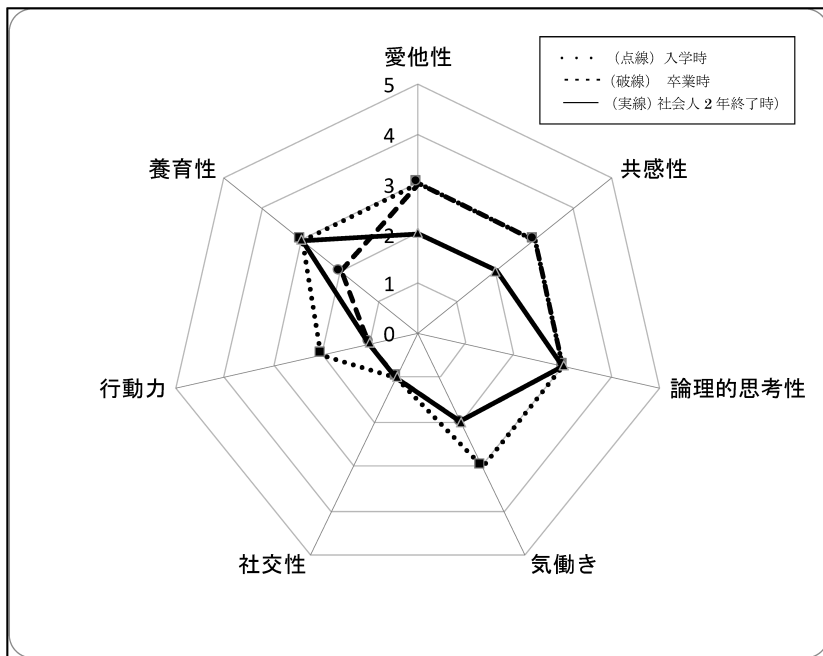


図5-2-4 (入学時から社会人2年終了時まで) G2

図5-2-4は、G2の第一段階から第三段階までの4年間のNTIプロフィールの結果を重ね合わせたものである。入学時に比べ、全体的に小さな七角形になっている。また7つの保育者特性の中、変化がなかった項目は、論理的思考性(標準点3点)、社交性(標準点1点)であった。この場合、多面的に物事を考えたり、物事を解ろうと努力し、事実や論理、普遍的な理論や法則性などを基準に物事を認識しようとする傾向がある。また苦手な部分として人と交わるのが苦手で、対人関係に消極的である。人と関わることにストレスを感じ易い。人の集まるところは苦手で、一人にいる方を好む傾向が特に強い特徴がある。この4年間で環境の変化があった中、NTIプロフィールに変化がなかった項目は、おそらくその人の持っている特性であり、一般的に言う性格を表しているのかもしれない。

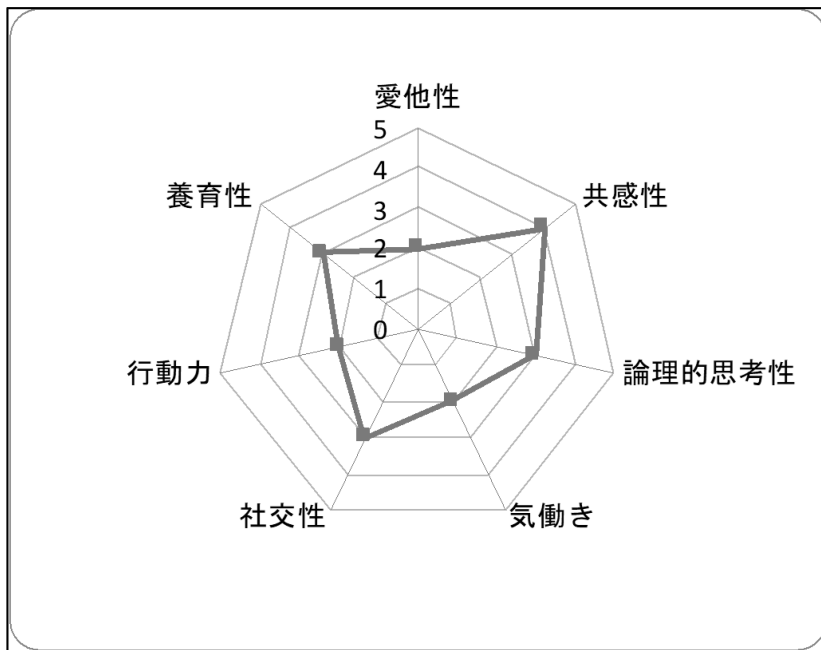


図5-3-1 (入学時) G3

図5-3-1は、G3の第一段階(入学時)のNTIプロフィールの結果である。愛他性が標準点2、共感性が標準点4、論理的思考性が標準点3、気働きが標準点2、社交性が標準点3、行動力が標準点2、養育性が標準点3のレーダーチャートである。この場合、人の感情や気持ちを自分のことのように感じる傾向が強く、人に同情的で、人の気持ちを大切にできる。その反面、自己本位で自己中心的傾向が強い。また人の様子や表情からその内面を察することがあまりできないといった傾向にある。

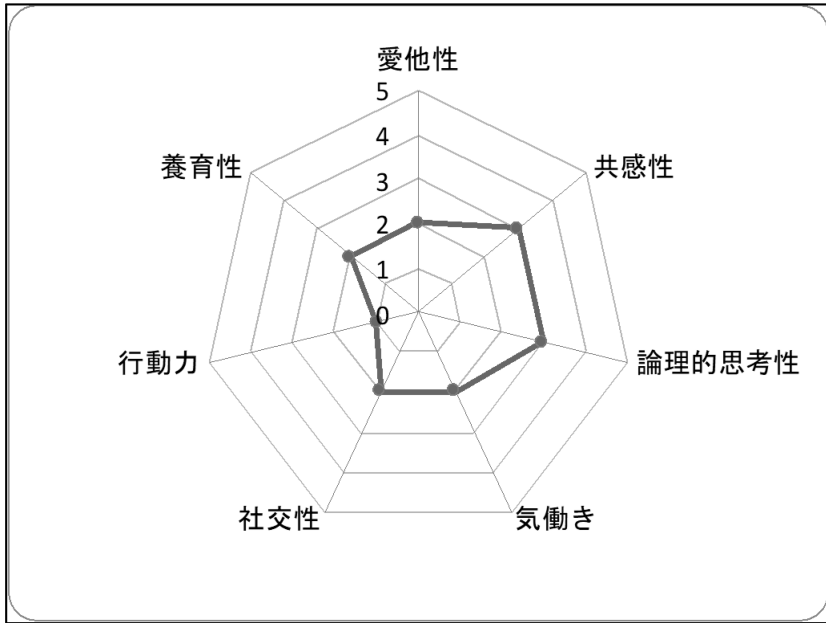


図5-3-2 (卒業時) G3

図5-3-2は、G3の第二段階（卒業時）のNTIプロフィールの結果である。愛他性が標準点2、共感性が標準点3、論理的思考性が標準点3、気働きが標準点2、社交性が標準点2、行動力が標準点1、養育性が標準点2のレーダーチャートである。7つの保育者特性尺度の中、変化がなかった項目は、愛他性、論理的思考性、気働きであった。良くなった項目はなかった。低下した項目は共感性、社交性、行動力、養育性であった。低下した項目が2年間の学びで変化した部分と考えた場合、人と交わるのが苦手で、対人関係に消極的であり、自分から積極的に物事に取り組むことができない特徴があり、そのため、人の感情や気持ちを共有したり、子どもの世話や子どもの成長に役立とうとする傾向が乏しく、実習などでは苦勞した場面もあっただろうと推測する。

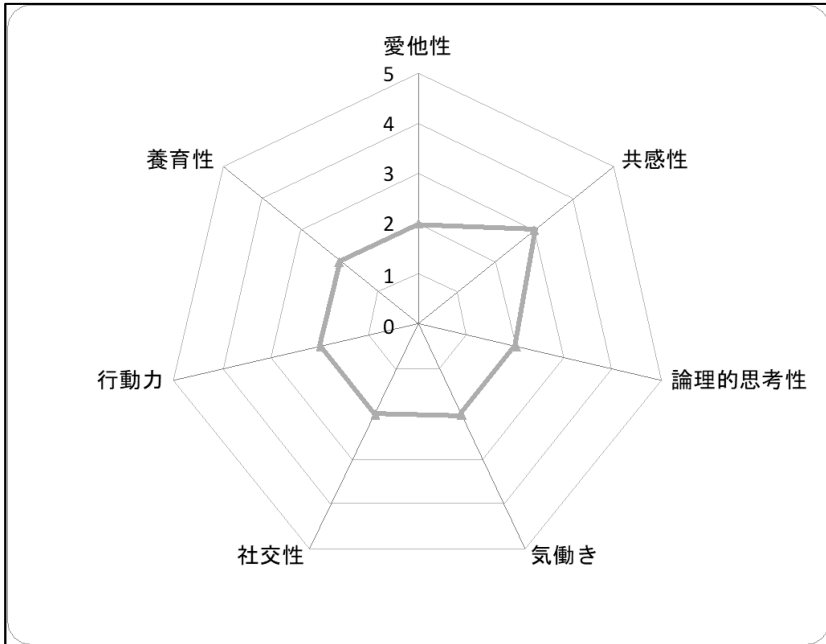


図5-3-3 (社会人2年終了時) G3

図5-3-3は、G3の第三段階(社会人2年終了時)のNTIプロフィールの結果である。愛他性が標準点2、共感性が標準点3、論理的思考性が標準点2、気働きが標準点2、社交性が標準点2、行動力が標準点2、養育性が標準点2のレーダーチャートである。7つの保育者特性尺度の中、卒業時に比べ変化がなかった項目は、愛他性、共感性、気働き、行動力、養育性であった。良くなった項目は行動力であった。低下した項目は論理的思考性であった。保育士として働いた2年間で変化したと考えた場合、積極的に取り組む傾向が出てきたことが、行動力の変化からうかがえる。また卒業後の2年間において、NTIプロフィールは変化することが示された。

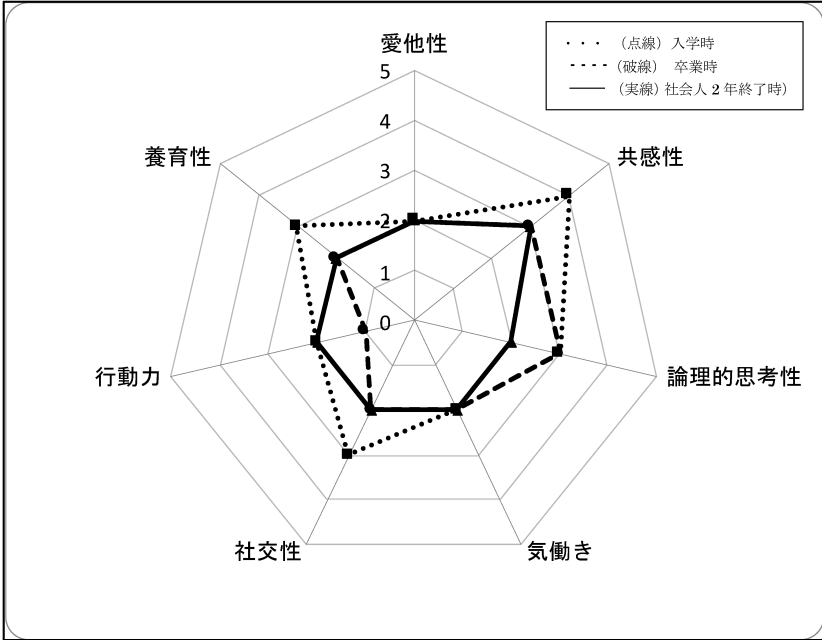


図5-3-4 (入学時から社会人2年終了時まで) G3

図5-3-4は、第一段階から第三段階までの4年間のNTIプロフィールの結果を重ね合わせたものである。入学時に比べ、全体的に小さな七角形になっているが、丸みを帯びたバランスの良い形になっている。また7つの保育者特性の中、変化がなかった項目は、愛他性(標準点2点)、気働き(標準点2点)であった。この場合、自分の関心のあることは熱心に行うが、他人のことには、自分と利害のある部分以外には関心を示さない傾向が強い。また人の気持ちに鈍感で、人の感情や気持ちの機微を感じる事が不得手である。人の様子や表情からその内面を察することがあまりできないと言った特徴がある。この4年間で環境の変化があった中、NTIプロフィールに変化がなかった項目は、おそらくその人の持っている特性であり、一般的に言う性格を表しているのかもしれない。

3.6. 質問に対する回答の変化について

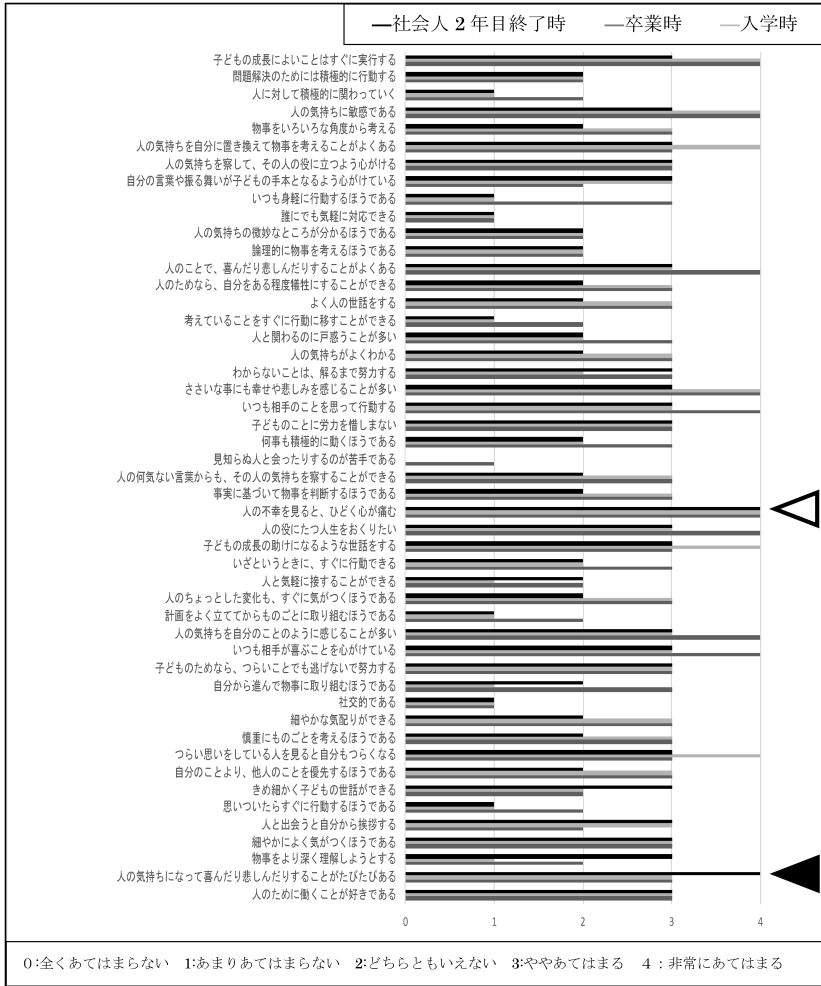


図6-1 質問に対する回答の変化(入学時から社会人2年終了時まで) G1

図6-1はG1の49の質問に対する回答の変化である。どの段階においても同じ回答をしている質問が9項目あった。その中でも4(非常にあてはまる)を選択している質問項目は「人の不幸を見ると、ひどく心が痛む(共感性)」

であった。また、社会人2年目になり4（非常にあてはまる）を選択している質問項目は「人の気持ちになって喜んだり悲しんだりすることがたびたびある（共感性）」であった。

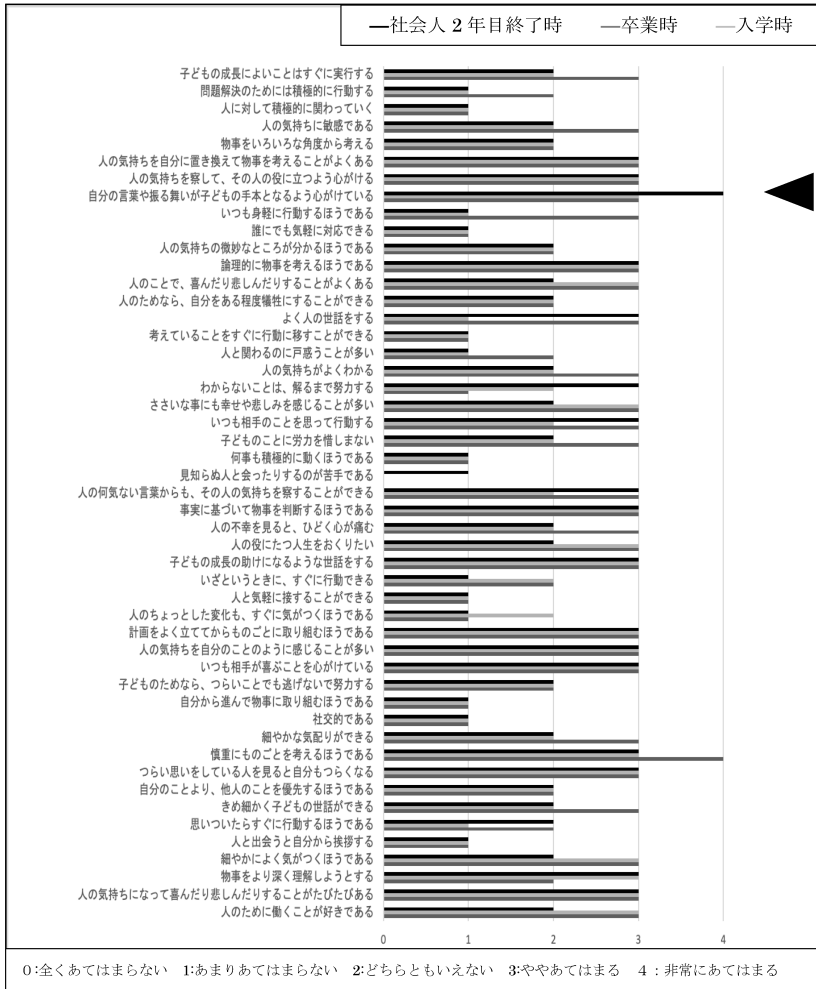


図6-2 質問に対する回答の変化(入学時から社会人2年終了時まで) G2

図6-2はG2の49の質問に対する回答の変化である。どの段階において
も同じ回答をしている質問が22項目あった。また、社会人2年目になり4（非
常にあてはまる）を選択している質問項目は「自分の言葉や振る舞いが子ども
の手本となるように心がけている（養育性）」であった。

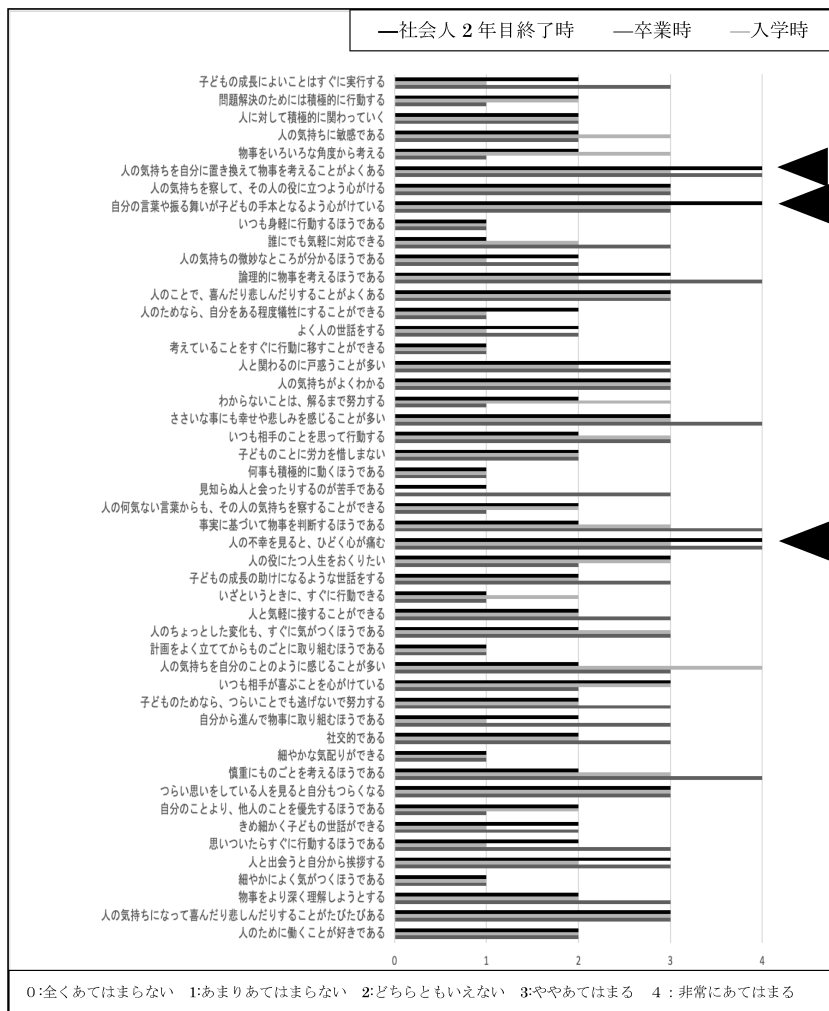


図6-3 質問に対する回答の変化（入学時から社会人2年終了時まで） G3

図6-3はG3の49の質問に対する回答の変化である。どの段階においても同じ回答をしている質問が12項目あった。また、社会人2年目になり4（非常にあてはまる）を選択している質問項目は「人の気持ちを自分に置き換えて物事を考えることがよくある（共感性）」、「自分の言葉や振る舞いが子どもの手本となるように心がけている（養育性）」、「人の不幸を見ると、ひどく心が痛む（共感性）」であった。

以上それぞれG1、G2、G3の回答結果から共通して見えてきたことは、社会人2年目になり4（非常にあてはまる）を選択している質問項目は、NTIプロフィールの7つの特性の内、共感性、養育性に関する質問項目であった。このように「非常にあてはまる」と自信をもってはっきりと回答できていることから、共感性、養育性においては、保育士として働いている中で、変化が期待できる特性であり、経験を積んでいくことで向上していくものと考えられる。

3. 7. 第三段階時の記述式アンケート結果

表3 記述式アンケート結果

	G1	G2	G3
1) 保育士として働いている中で、気持ちの面でどのような変化がありましたか？	○「自分のクラスの子どもたち」という感覚が強くなり「この子たちに合った保育とは？」と考えたり、成長を願ったりすることが増えた。	○1年目は仕事を覚えるのに必死でしたが、2年目は少し見通しを持って働けるようになりました。 ○1年目も2年目も乳児クラスで担当制保育を行っているが、2年目は自分の担当だけでなく、クラス全体にも目を向けるように心がけている。	○入社する前は夢と期待感でいっぱいだったが、正直保育士は大変なことが多く、働くのが辛いと思うことが多くなった。しかし、子どもたちは可愛く、日々子どもの成長を感じることで保育士ってすごい職業だと思えるようになり頑張れている。
2) 働いていく中で一番成長した部分はどこですか？	○周りの様子や状況を見て行動しようとするが増えた。 ○子どもの言葉からだけでなく、表情や行動から一人ひとりの思いや特性などを捉えられるようになってきている。	○子どもの発達段階を学び、照らし合わせながら子どもと接することで理解が深まった。 ○発達の遅れなどに気づくことができるようになった。	○社会人としてのマナーが身についた。
勤務1年目	1歳児：担任	0歳児：担任	1歳児：担任
勤務2年目 (年度末に第3段階実施)	4歳児：担任	1歳児：担任	2歳児：担任
勤務3年目	0歳児：担任	0歳児：担任	1歳児：担任

表3は第三段階時（社会人2年目終了時）にNTI検査後に追加して実施した記述式アンケート結果を一覧にまとめたものである。

G1は子どもの成長を願うことや、共感性に関する記述が記され、保育士としての心の成長がうかがえる内容である。G2は保育士としての成長が記され、

見通しを持った行動や、周囲の状況を把握するなど、技術的な面の成長がうかがえる。G3は保育士としての気持ちの変化や責任感について記され、社会人としての成長が感じられる内容であった。

4. 考察

第一報では藤村（2012）が新しく研究開発した保育者特性インベントリィ（NTI）を本学幼児教育学科の1年生9名への実施を試み、入学の早い段階から、各学生の特性を一定の診断結果から学生自身が理解し、自己開発の一つとして活用できること、また、教員側の指導にいかせる可能性が確認できた。

そして第二報の今回は、2年間の本学での学びや教育実習・保育実習で得た体験から、どの項目がどの程度変化するのか、その後実際の現場で働いていく中、さらにどのように変化していくのかを明らかにしようと追跡調査を実施した。

対象者3名はいずれも本学に在籍した2年間、同じクラスで学び、卒業後は同じ社会福祉法人が運営する保育所に保育士として勤務している。それぞれ配属先は異なるが、2年間同じ保育所に勤務する。また年度毎に担当するクラスは異なるが、職員研修などは同じように受講している。よってある程度同じ職場環境で勤務していた3名を対象とし、本学卒業時と社会人2年目終了時の2回の追跡調査について協力を得ることができた。

NTIプロフィールの結果から、入学時から卒業時、そして社会人2年目までそれぞれに変化が見られた。保育者特性尺度の7項目において、良くなった項目、低下した項目、変化がなかった項目とそれぞれ標準点から判断した。

結果、入学時より良くなった項目はなく、低下した項目はどの対象者にも見られた。また変化がなかった項目も見られた。

入学時に実施した第一段階の結果では、その多くの学生が標準点3を超える高い値を示し、「子どもが好き」「保育士になりたい」という夢の実現に向けた気持ちが高まる段階での結果であった。第二段階は2年間で子どもとの関わり方や人の気持ちなどを感じとる難しさなど様々な経験と学修を積み、そして実

際に保育士としての就職が決まり、社会人になる期待と不安の中での結果であった。3名とも入学時に比べ、全体的に得点は低く、評価が低い傾向であった。その後社会人となり、保育士として2年が経過した第3段階では、バランスの取れたチャートを示す者、そしてどの対象者にも保育者特性の内、1つは標準点3が現れている結果となった。

このことから、NTIの検査については、実施する者が、対象者がどの段階であるのかを考えて活用することが望ましいのではないかと考える。なぜなら、今回の結果から、どの対象者も第一段階から第三段階まで変化が見られ、行動傾向も変化したからである。そして、記述式アンケートからは保育者としてのやりがいや成長がうかがえた。3名の追跡調査のため、段階毎の傾向などは把握するに至らなかったが、3名のそれぞれの変化が見られた。

今回の追跡調査から、保育者特性から見えてくるものは、視覚化されたチャートの変化や、バランスが比較しやすく、保育者として成長する過程がある程度理解できた。そして、より詳しく理解しようと49の質問項目を第一段階から第三段階まで比較したことで、共感性や養育性に関する質問に対しては、はっきりとした回答が示されていた点に気づけた。これは、日々保育士として勤務する中での経験からそれぞれが成長した部分として評価したい。今後は、もう少し追跡調査ができれば、5年目、10年目などの節目で検査し、新しい発見や気づきから、今後の保育者養成などに活用していければと考えている。

謝辞

本研究においてご協力いただきました卒業生に心から感謝申し上げます。

<参考・引用文献>

伊藤永修・永房典之・星道子, (2007), 保育者適性尺度作成の試み, 東京文化短期大学紀要, 24, 5-10

江田美代子, (2007), 保育士に求められる資質能力に関する調査研究, 宮崎女子短期大学, 34, 31-46

小笠原眞弓・金谷有希子, (2013), 保育者養成における新入学生の意識, 和歌山信愛女子短期大学信愛紀要 53, 51-60

清水幸子・佐藤雄紀, (2017), 個人の保育者特性プロフィールの視覚的な診断から見えてくるものとは一導入を試みて一, 信州豊南短期大学紀要, 34, 161-174

垂見直樹・金俊華・林幸治, (2011), 保育士養成校におけるキャリア教育の課題, 近畿大学九州短期大学紀要, 41, 59-69

藤村和久, (2012), 保育者特性イベントリィ(NTI)の標準化, 大阪樟蔭女子大学研究紀要, 2, 23-33

藤村和久, (2013), NTI実施手引(手採点用), 竹井機器工業株式会社